

IV 溪流生態系の再生

<主要施策の取組状況>

1 溪流生態系の調査・モニタリングと保全・再生手法の検討

① F S 溪流生態系の調査・モニタリングと保全・再生手法の検討

- 平成 19 年に県有林内で溪畔林整備をした中川川上流域（大滝沢）及び中津川上流域（本谷川）において、林床植生調査、林床被覆状況調査、樹木の生育状況調査、光環境調査を実施した。また、調査の結果を基に溪畔林整備の効果について、分析・評価をした。
- 東丹沢の 2 流域、西丹沢の 6 流域において、既設植生保護柵の点検及び補修を実施した。これによって、ニホンジカの採食による影響を排除し、良好な溪畔林が生育する環境を確保した。



既設植生保護柵の点検・補修後の状況
(清川村)

② F S 魚類等による溪流環境の評価手法の検討

- 溪畔林整備の効果を評価する調査方法を検討するために、溪畔林を整備した河川において、魚類の食性と付着藻類、上空の開空度、底生生物、流下生物、落下生物の調査、環境測定の河川モニタリングを実施した。
- 調査地点は東丹沢 2 地点、西丹沢 4 地点の合計 6 地点とし、9 月から 10 月に調査を実施した。東丹沢 2 地点については季節変動の把握のため、2 月にも調査を行い、唐沢川ではヤマメの繁殖状況を把握するため、3 月に 2 回調査を行った。
- 3 月に実施した繁殖調査では、ヤマメ稚魚が約 30 尾確認され、成魚がいない緩やかな流れにまともして生息していることが明らかとなった。



溪流域におけるモニタリングの様子

③ F S 淡水魚類のモニタリングと保全方策の検討

- 丹沢在来のヤマメとカジカについて、相模川水系および酒匂川水系の溪流域にて、エレクトロフィッシャー^{※1}と叉手網^{※2}、手網を用いて採集調査を行った。その結果、相模川水系 2 支流と酒匂川 1 支流からヤマメとカジカを採集し、ヤマメの外部形態についてパーマーク^{※3}や朱点の解析を行うとともに、鱭^{ひれ}サンプル

ル^{※4}を採取し、遺伝子の解析を行った。

- ・ 酒匂川水系の在来ヤマメを由来とするヤマメ種苗の試験生産を実施した。また、県内漁業者の種苗の自家生産技術習得に向けて、飼育及び採卵技術を指導した。
- ・ 酒匂川水系在来ヤマメ（F2^{※5}）を由来とするヤマメ種苗 130 尾を試験生産した。また、酒匂川漁業協同組合に水産技術センター内水面試験場で生産した種苗を提供して飼育技術を指導したほか、漁協にてヤマメ卵 3,000 粒の採卵を指導した。



西丹沢のカジカ

- ※1 エレクトロフィッシャー 魚を一時的に気絶させる装置。
- 2 ^{さであみ} 叉手網 U字型の網。
- 3 パーマーク サケ科魚類の体側にある楕円状の斑紋で、通常は幼魚のみに見られるが、イワナやヤマメでは成魚にもある。
- 4 ^{ひれ} 鱭サンプル ヤマメの鱭の一部をハサミで切除し、アルコール標本としたもの。
- 5 F2 酒匂川水系在来ヤマメの二代目

2 溪流生態系の保全・再生事業の実施

①ダム湖上流等における土砂流入防止対策

- ・ 治山事業により、谷止工、山腹工、既存施設の補修等 [16 箇所] を実施し、ダム湖等への土壌流出の防止を図った。



谷止工(峰ノ沢:山北町)

②森林土壌保全による溪流への土壌流入防止対策（I-3-①）

- ・ I-3-①に記載のとおり

③ 溪畔林の整備

- 「溪畔林整備の手引き(平成 29 年 3 月)」を活用した溪畔林整備として、水源林整備事業により、間伐、丸太筋工等の森林整備 [1.78ha] を実施した。これにより、林内の光環境が改善し、溪畔林の植生回復が促進された。



水源林整備事業 施工地(秦野市堀山下)

○事業実施位置図 (位置情報のある事業のみ掲載)

